

第67号 「なでしこダイジェスト版」
(令和5年1月1日発行)

1991（平成3）年、小笠原の旧島民から極めて貴重な資料が当協会に寄贈されました。

1933（昭和8）年から1939（昭和14）年まで小笠原諸島父島の大村に住んでおられた坪井肇氏のお母さまの千代子さんが大村尋常高等小学校に在籍していた当時の、児童・生徒が書かれた作文集「なでしこ」である。作文集は6年分で59冊という大量なものです。

今回、東南アジア近現代史を専攻し、「なでしこ」の歴史的価値に深く着目してこられた早稲田大学名誉教授の後藤乾一先生より、「なでしこ」全59冊を復刻版として発刊したい、とのお話を頂き、願ってもないことと快諾し、(株)めこん(桑原農社長)より令和4年10月に発刊されました。

編集者の後藤先生や桑原社長のご厚意により、復刻版の僅かな一部を抜粋してダイジェスト版として、「小笠原」特集号として発刊しました。

本特集号をお読みになり、興味・関心を持たれた方は是非、「なでしこ」復刻版をお読み頂きたいと思います。

なお、本特集号では、頁数の関係で割愛せざるを得なかった、「なでしこ」復刻版に掲載の「なでしこ」解説には、昭和初期の小笠原の子どもの生活や教育が細に記述されており、これだけでも一読の価値があります。

この解説は、法政大学沖縄文化研究所で沖縄と小笠原の関係を研究されている大里知子准教授（「小笠原」特集号第62号「小笠原の歳月」の編集者）が執筆されました。

